

#### 4. 富士見市の文化財・文化遺産をつなぐもの

富士見市の歴史文化を特徴づけるテーマ			
<h2 style="margin: 0;">水が育んだ文化</h2> <p style="margin: 0;">～武蔵野の台地と低地に暮らす～</p>			
キーワード	関連文化財群	設定の理由	主な文化財
貝塚	海と川が育んだムラ	縄文海進や河川、湧水等により台地縁辺には縄文時代の集落が数多く形成され営まれてきた。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水子貝塚</li> <li>・打越遺跡出土資料</li> <li>・殿山遺跡出土資料</li> <li>・御庵遺跡出土資料</li> <li>・節沢遺跡出土資料</li> </ul>
柳瀬川	武蔵野崖線に栄えた古代のムラ	弥生時代以降、古代の集落は柳瀬川を望む台地崖線に集中する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・南通遺跡</li> <li>・北通遺跡</li> <li>・東台遺跡出土資料</li> <li>・氷川前遺跡出土資料</li> </ul>
館跡	領主の盛衰と村のなりたち	荒川沖積地の自然地形を利用して形成された館跡を中心に、富士見市の中世～近世の歴史が紡がれてきた。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・難波田氏館跡</li> <li>・難波田氏館跡出土資料</li> <li>・山形遺跡出土資料</li> <li>・文書資料</li> <li>・中世城館跡</li> </ul>
信仰	修験寺院と民衆信仰	市内の寺院には、山岳信仰を取り入れた修験道に関連する寺院が多い。また、市内には水の神として信仰された弁財天の石造物が近隣市町と比べても多い。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・十玉院、般若院関連資料</li> <li>・囃子、獅子舞</li> <li>・難波田氏館跡</li> <li>・浅間信仰に係る石造物</li> <li>・上沢薬師堂百観音</li> <li>・里神楽</li> <li>・水に関連する石造物（治水と豊穡の信仰）</li> </ul>
新河岸川 舟運 治水 水田地帯 水車	水とともに生きる	新河岸川は、治水により九十九曲りと呼ばれるほど屈曲させ、水かさを増すことで舟運に活用した。そのため市内には河岸場が6か所存在し繁栄した。また、水車や製氷などの水を利用した商いも盛んであった。南畑地域では、洪水等の水害と闘う歴史もある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・河岸場</li> <li>・道しるべ【市指定】</li> <li>・堤跡（木曾目堤、竹ノ内堤）</li> <li>・樋管【市指定】</li> <li>・水塚</li> </ul>
野方・里方	地域に息づく景観と生活	台地と低地に分かれる自然地形には、それぞれに特有の景観と生活が存在し、独自の文化が形成されてきた。（景観・自然も取り入れる。）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水田地帯、畑作地帯の景観と動植物</li> <li>・雑木林や斜面林</li> <li>・湧水場所</li> <li>・畑作、稲作等の民俗資料</li> <li>・検地帳等の文書資料</li> <li>・七沢八寺</li> </ul>
鉄道 ベッドタウン 水害	都市化の波と水との闘い	鉄道の普及とともに、ベッドタウンとして市内の開発が進み、水谷東地区では水害と闘ってきた経緯がある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鶴瀬駅之碑</li> <li>・古文書</li> </ul>
地名 伝承	地名・伝承に語り継がれる地域史	形として残されておらず、語り継がれるものの中にも各土地の特徴や歴史があり、社会情勢の変化や時代の流れの中で途絶えていきつつある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>地名（小名）伝承</li> <li>・石造文化財</li> <li>・古文書</li> </ul>

